

# 第57回景況アンケート調査 結果報告書

(令和5年1月31日作成)

## 足利商工会議所

足利市通3丁目2757  
Tel0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 4年10月～12月期》実績  
《令和 5年 1月～ 3月期》見通し

### 調 査 要 領

#### 1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

#### 2. 調査期間

令和4年12月15日（木）～令和5年1月13日（金）

#### 3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業204社  
(うち回答企業数155社：回答率76.0%)

#### 4. 回答企業数

製造業	53 社
繊維工業	17 社
建設業・設備工事業	20 社
卸売業・小売業	30 社
飲食業・サービス業	35 社
計	155 社

#### 5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

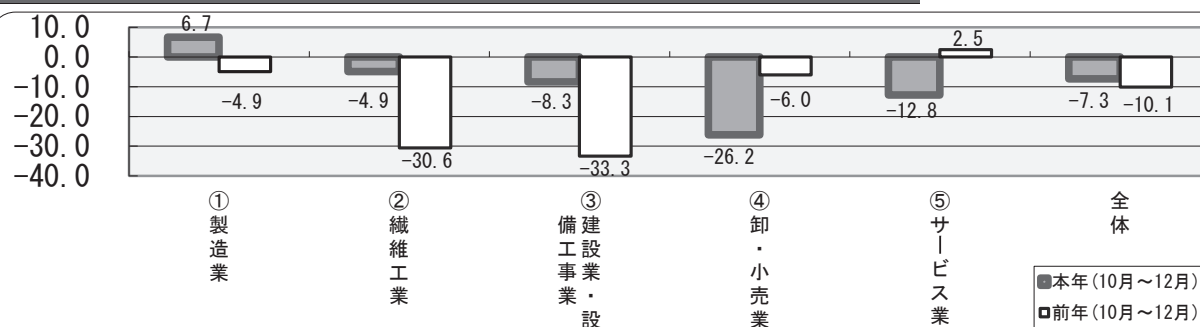
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

## I. 当期（10月～12月）の景況について

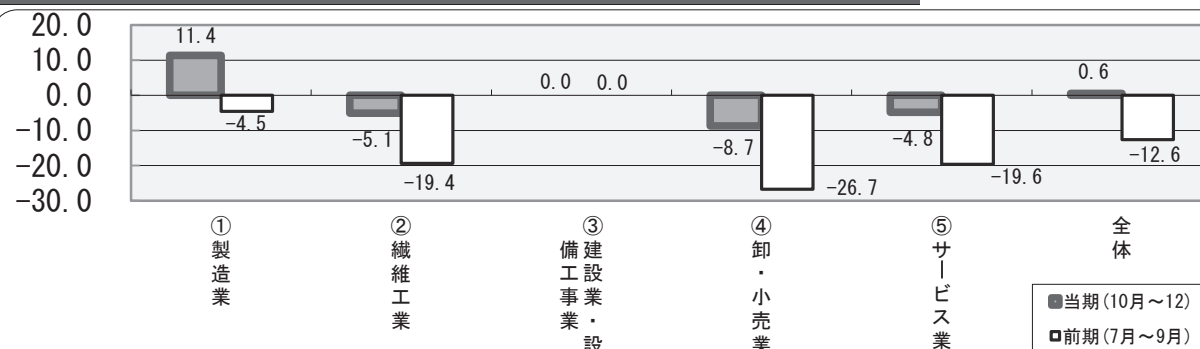
### 1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



#### 【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲7.3ポイント（前年同期▲10.1）と、前年同期に比べて2.8ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業がマイナスからプラスへ転じている他、繊維工業、建設業・設備工事業は前年同期と比べて回復傾向にある。一方で、サービス業はマイナスへ転じ、卸・小売業はマイナス幅が拡大している。

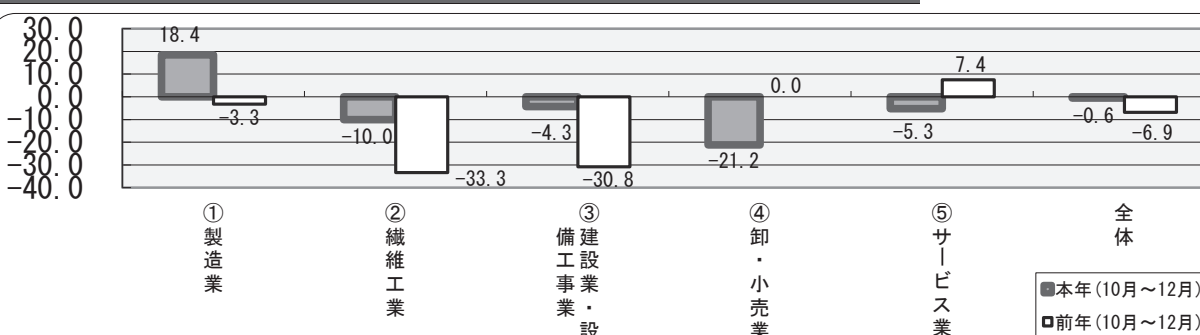
### 2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



#### 【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では0.6ポイントと、前期（前3ヵ月間▲12.6）に比べて13.2ポイント上昇しプラスに転じた。業種別では、製造業がマイナスからプラスへ転じている他、建設業・設備工事業（前期同ポイント）以外の全業種でマイナス幅が大幅に縮小している。

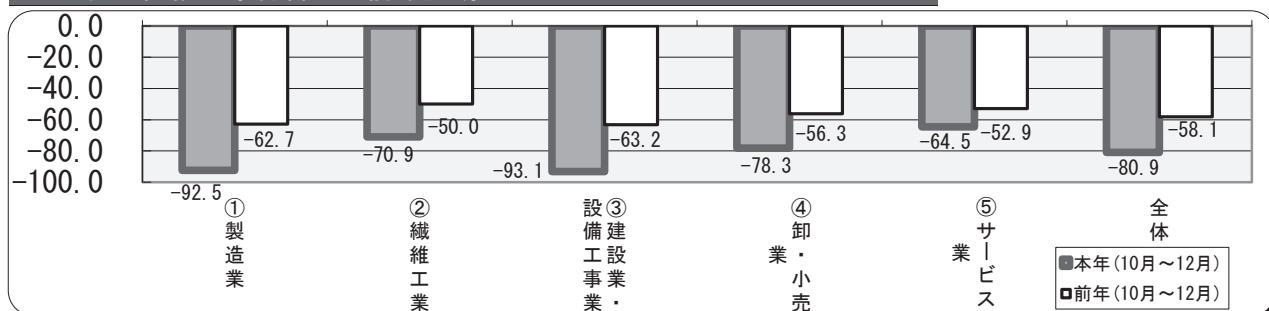
### 3. 売上高は前年同期に比べて



#### 【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲0.6ポイント（前年同期▲6.9）と6.3ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では製造業がプラスに転じている他、繊維工業、建設業・設備工事業が大幅にマイナス幅が縮小している一方、卸・小売業とサービス業はマイナスに転じている。

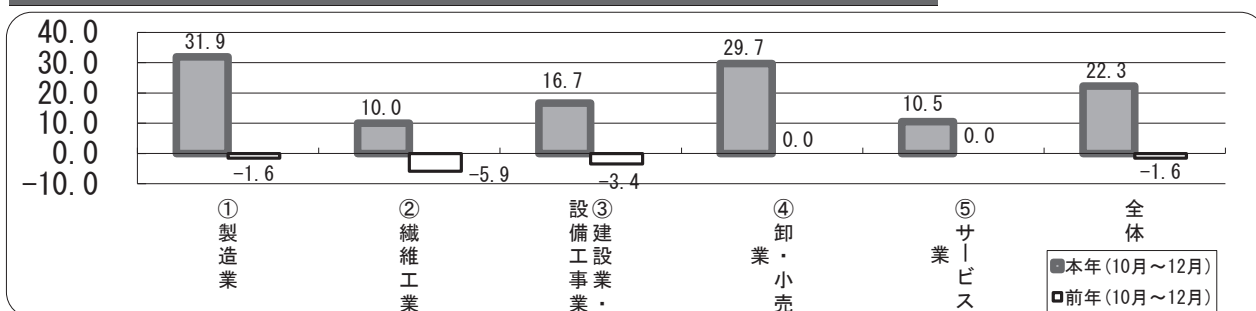
#### 4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



#### 【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D I は、全体では▲80.9ポイント（前年同期▲58.1）と前年同期に比べて22.8ポイントマイナス幅が拡大。業種別では、全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格上昇の傾向であることが伺える結果となった。

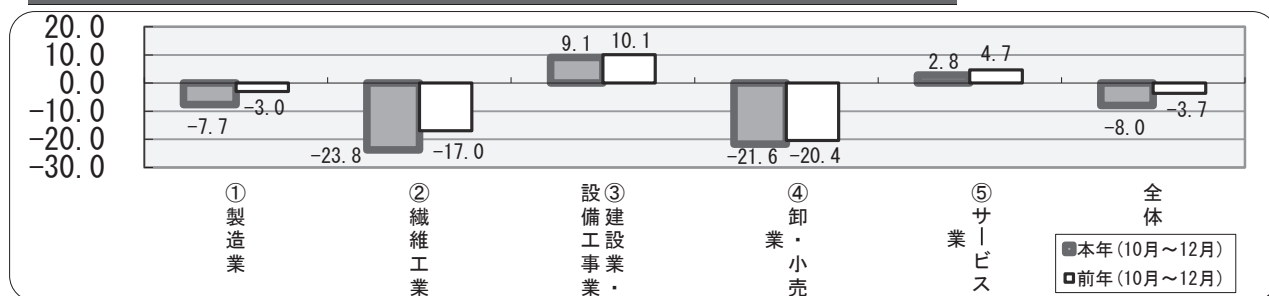
#### 5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



#### 【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D I は、全体では22.3ポイント（前年同期▲1.6）と前年同期と比べ23.9ポイント上昇しマイナスからプラスに転じた。業種別では、製造業、繊維工業、建設業・設備工事業が上昇しプラスに転じている他、卸・小売業とサービス業がそれぞれ0ポイントから上昇し、全体的に上昇が目立つ結果となった。

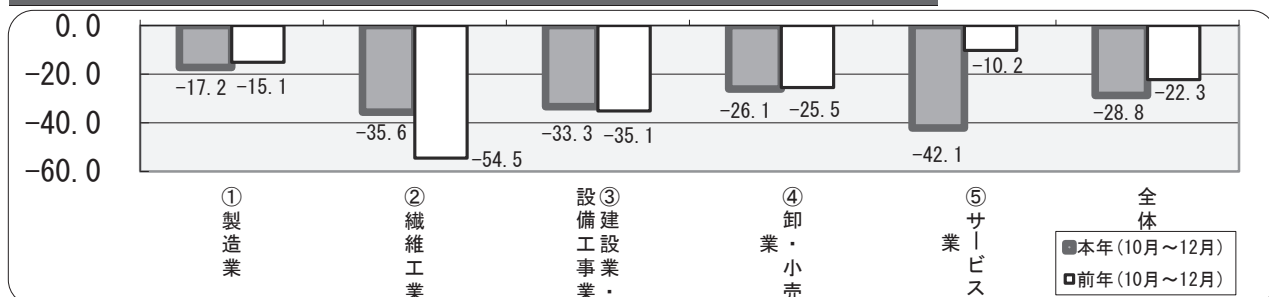
#### 6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



#### 【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D I は、全体では▲8.0ポイント（前年同期▲3.7）と、前年同期と比べると4.3ポイントマイナス幅が増加。業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業が昨年同様マイナス傾向であるが、建設業・設備工事業とサービス業ではプラス傾向を維持する結果となった。

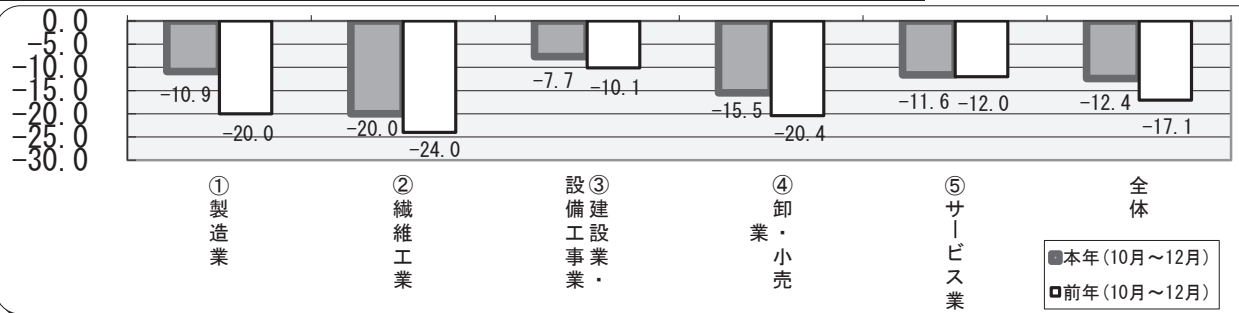
#### 7. 利益状況は前年同期に比べて



#### 【利益状況D I】

利益状況D I は、全体では▲28.8ポイント（前年同期▲22.3）と、前年同期と比べて6.5ポイントマイナス幅が増加。業種別では、全業種ともマイナス傾向であったが、サービス業が前年同期と比べ31.9ポイントマイナス幅が拡大したのに対し、繊維工業は、18.9ポイントマイナス幅が縮小する結果となった。

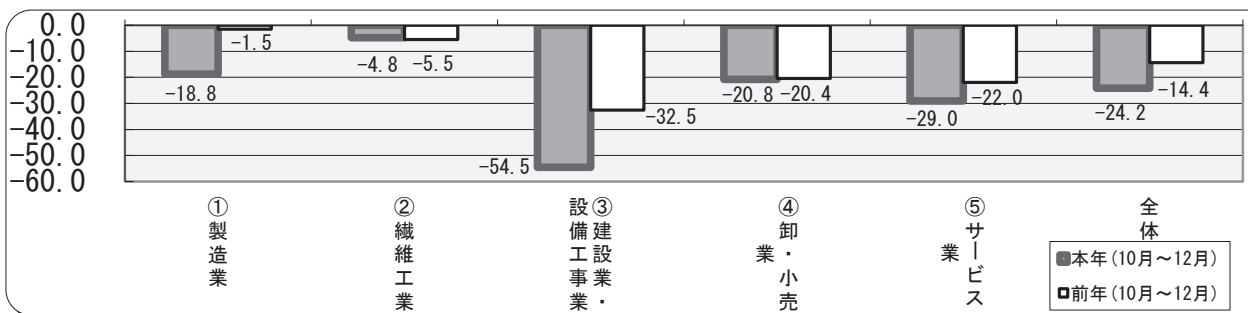
## 8. 資金繰りは前年同期に比べて



### 【資金繰りD I】

資金繰りD Iは、全体では▲12.4ポイント（前年同期▲17.1）と、前年同期と比べて4.7ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業が9.1ポイントマイナス幅が縮小しており、他の業種でも前年同期と比べてマイナス幅は縮小しているが、依然として資金繰りは悪化の傾向にあることが伺えた。

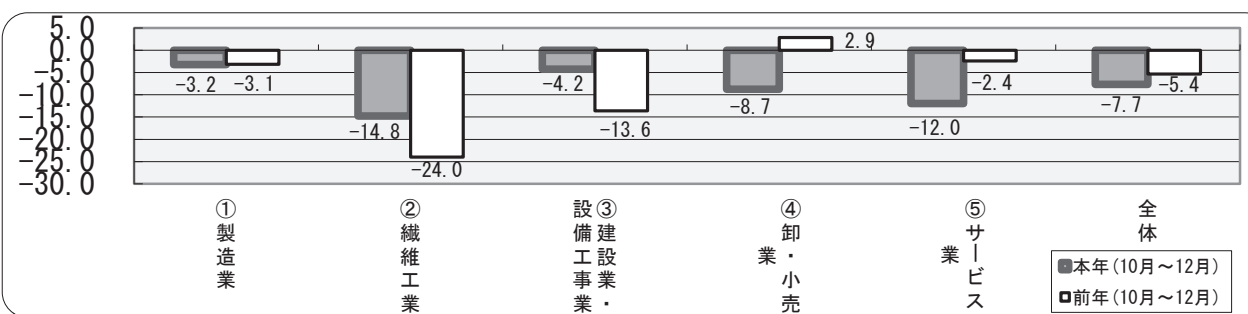
## 9. 労働力は前年同期に比べて



### 【労働力D I】

労働力D Iは、全体で▲24.2ポイント（前年同期▲14.4）と、前年同期に比べて▲9.8ポイントマイナス幅が拡大。業種別では、製造業、建設業・設備工事業、サービス業でマイナス幅が拡大、繊維工業と卸・小売業は大きな変化はないが、全業種の数値がマイナス幅であることから全業種で労働力の不足が見受けられる結果となった。

## 10. 設備稼働率は前年同期に比べて

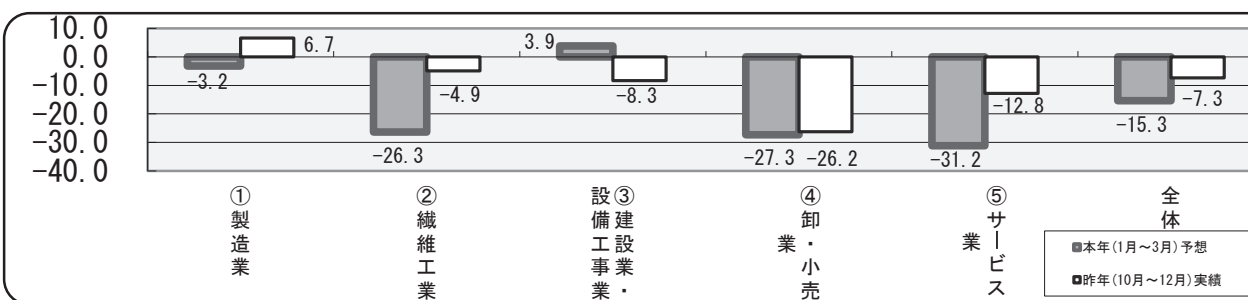


### 【設備稼働率D I】

設備稼働率D Iは、全体で▲7.7ポイント（前年同期▲5.4）と、前年同期に比べて2.3ポイントマイナス幅が拡大。業種別では、前年同期では唯一プラスであった卸・小売業が11.6ポイント減少でマイナスに転じている他、サービス業が9.6ポイント減少でマイナス幅が拡大している。

## Ⅱ. 今後3ヵ月間(令和5年1月～3月)の推移の予想について

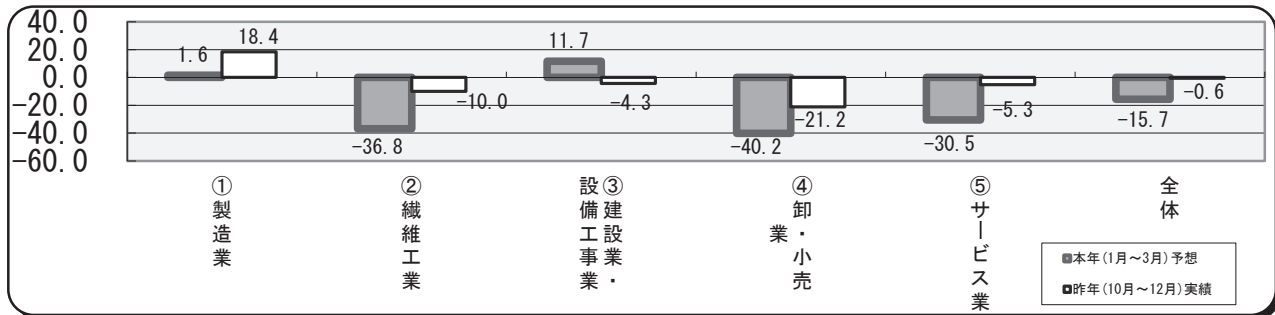
### 11. 業況は当期（10月～12月期）に比べて



### 【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲15.3ポイント（当期▲7.3）と、8ポイントマイナス幅が拡大する見込み。業種別では、繊維工業、サービス業のマイナス幅が大幅に拡大、一方、製造業はプラスからマイナスに、建設業・設備工事業はマイナスからプラスに転じる見込み。

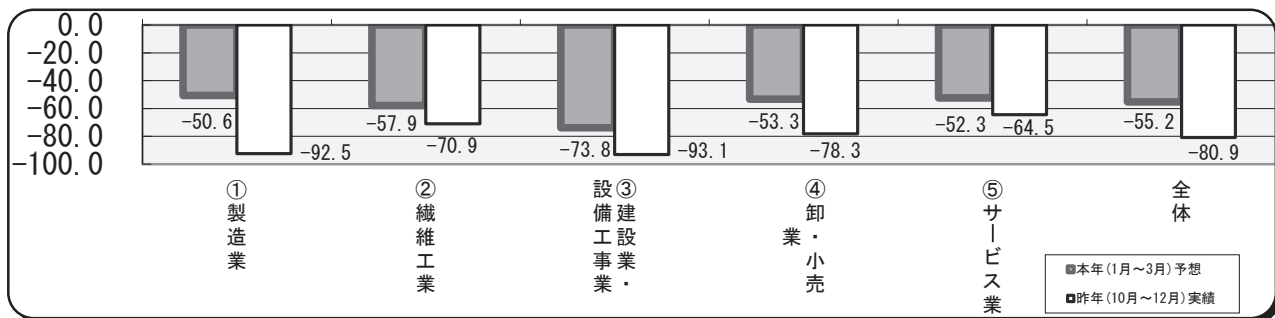
### 12. 売上高は当期（10月～12月期）に比べて



### 【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲15.7ポイント（当期▲0.6）とマイナス幅が拡大する見込み。業種別では、繊維工業は26.8ポイント、卸・小売業は19ポイント、サービス業は25.2ポイント減少でマイナス幅が拡大。その他の業種では、製造業が16.8ポイント減少、建設業・設備工事業は16ポイント上昇でマイナスからプラスに転じる見込み。

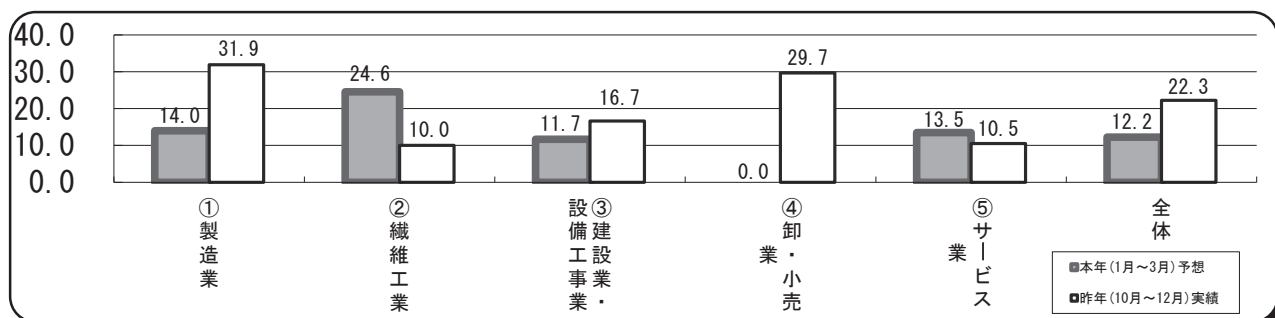
### 13. 仕入価格（原材料）は当期（10月～12月期）に比べて



### 【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは全体で▲55.2ポイント（当期▲80.9）と、25.7ポイントマイナス幅が縮小する見込み。全業種で10ポイント以上マイナス幅が縮小しているが、依然として価格の上昇は続く見込み。

### 14. 受注・販売価格は当期（10月～12月期）に比べて

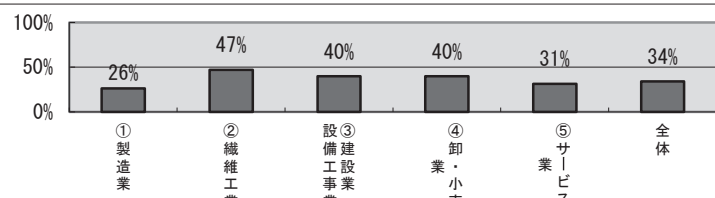


### 【受注・販売価格D I】

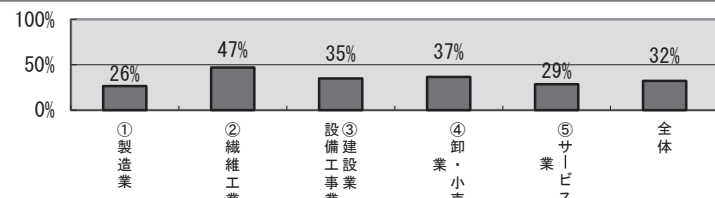
受注・販売価格D Iは全体で12.2ポイント（当期22.3）で10.1ポイント減少する見込み。業種別では、繊維工業とサービス業が当期を上回る予想となったが、製造業、建設業・設備工事業、卸・小売業は当期よりも予想を下回る結果となった。

### Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

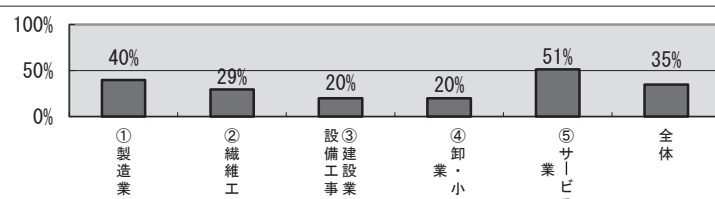
1. 経営の見通し（将来性）		
①. 製造業		14
②. 繊維工業		8
③. 建設業・設備工事業		8
④. 卸売業・小売業		12
⑤. サービス業		11
全 体		53



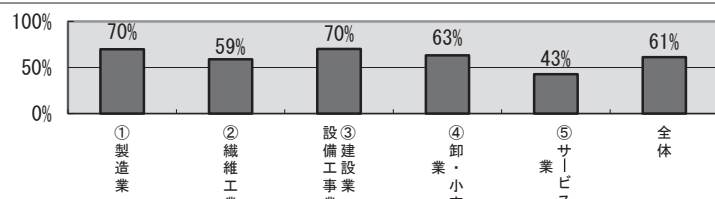
2. 売上（受注）の低下		
①. 製造業		14
②. 繊維工業		8
③. 建設業・設備工事業		7
④. 卸売業・小売業		11
⑤. サービス業		10
全 体		50



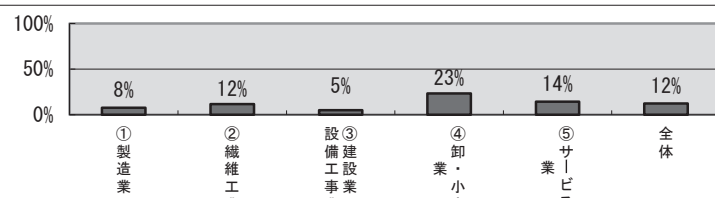
3. 原油価格上昇による収益の悪化		
①. 製造業		21
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		4
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		18
全 体		54



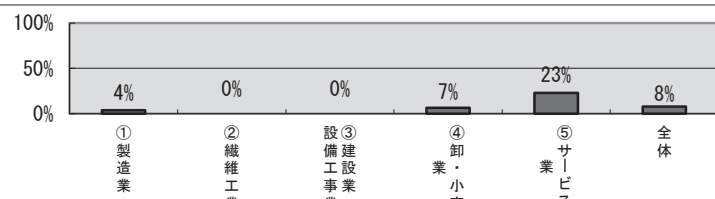
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇		
①. 製造業		37
②. 繊維工業		10
③. 建設業・設備工事業		14
④. 卸売業・小売業		19
⑤. サービス業		15
全 体		95



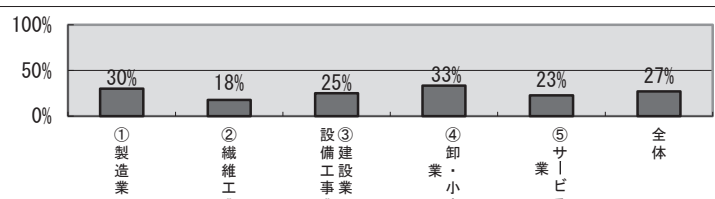
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）		
①. 製造業		4
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		7
⑤. サービス業		5
全 体		19



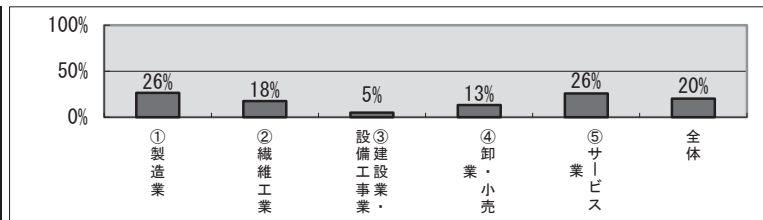
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）		
①. 製造業		2
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		8
全 体		12



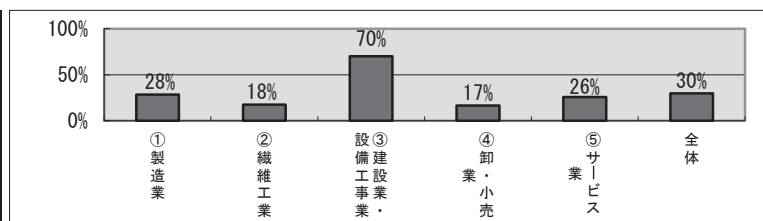
7. 経費（人件費・外注費）の増加		
①. 製造業		16
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		5
④. 卸売業・小売業		10
⑤. サービス業		8
全 体		42



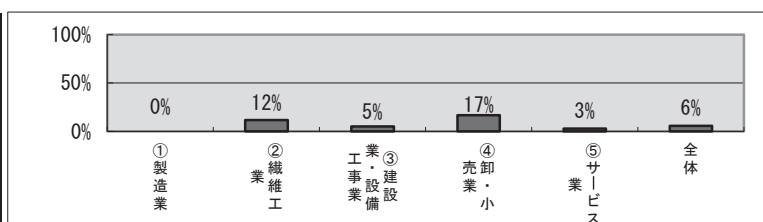
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		14
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		9
全 体		31



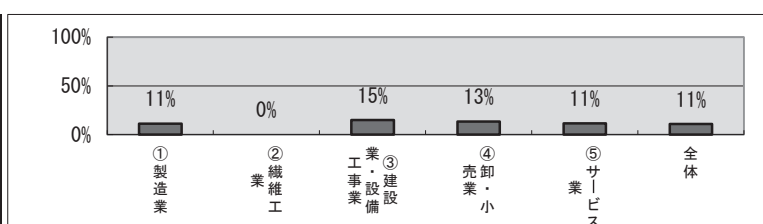
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		15
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		14
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		9
全 体		46



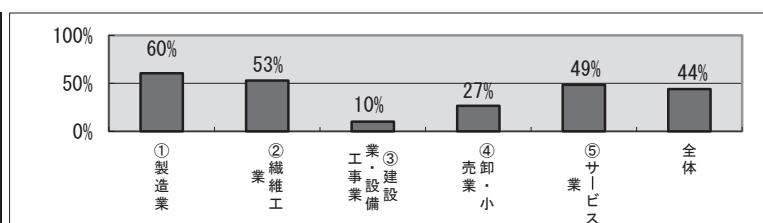
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		1
全 体		9



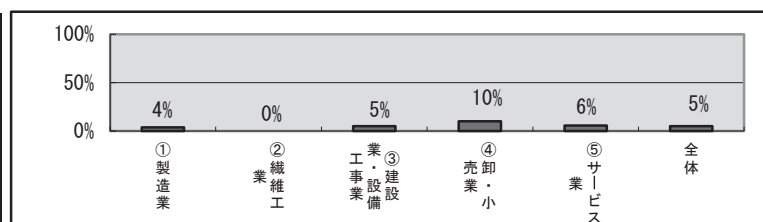
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化		
①. 製造業		6
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		4
全 体		17



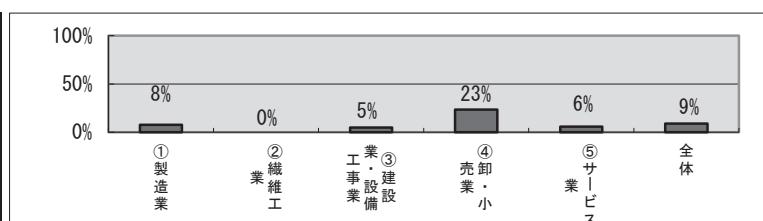
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		32
②. 繊維工業		9
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		8
⑤. サービス業		17
全 体		68



13. 改正電子帳簿保存方への対応		
①. 製造業		2
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		3
⑤. サービス業		2
全 体		8



14. インボイス制度への対応		
①. 製造業		4
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		7
⑤. サービス業		2
全 体		14





## 【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「原材料（商品）仕入価格の上昇」と回答した企業が61%で最も多く、次いで「後継者難と事業承継」（44%）、「原油価格上昇による収益の悪化」（35%）、「経営の見通し(将来性)」（34%）、「売上(受注)の低下」（32%）と続いている。

全業種で「原材料（商品）仕入価格の上昇」を一番の経営上の問題点として挙げており、長期化するロシアのウクライナ侵攻や、円安の影響による物価高騰に歯止めが利かなくなっている状況である。

また、建設業・設備工事業では「従業員・技術者等の確保難」（70%）、製造業では「後継者難と事業承継」（60%）の問題が顕著になっている。

## 【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

### ◎製造業

- ・ 円安に伴い、輸出品での売上高増、利益増はあるものの、原材料費、燃料費、電力費の高騰が利益の伸びを阻害している。この状況下でも、受注獲得増及び製品単価への値上げの両輪で利益確保に努める。
- ・ 電気料金値上げが想定以上で大変厳しい。
- ・ 直近1年は価格改定が相次ぎ、過去のデータがあてにならない。今後どうなるか成り行き任せで、その都度ベターな対応をしていくしかなく会社基盤強化が大切と考える。
- ・ 販売価格の見直し（値上げ）について合意を得にくいなか、物価高による変動費上昇で、利益の確保が難しくなっている。
- ・ まだ円安が続く見込み、売上増ながら利益は減少。
- ・ 会社の売上は得意先の売上状況に左右される。得意先の売上の影響がここに来て極端に表れている。

### ◎繊維業

- ・ 繊維業においてはコロナの揺り戻し需要が世界規模で発生しており、弊社も注文が殺到しているが、原材料の入手ができず断らざるを得ない状況が続いている。

### ◎卸・小売業

- ・ 為替の動向
- ・ 仕入れ価格の上昇が激しい。年度契約していてすぐ販売価格に転嫁できない商品もあり、損益が厳しくなり、粗利益率は低下する。

### ◎飲食・サービス業

- ・ ガス、電気等のエネルギー費用はウクライナ戦争の影響により、大幅に上昇してしまい経営を非常に圧迫している。
- ・ 地方の活性化に期待します。



# 足利市のチラシ折込調査レポート（2022.11）

調査地：足利市伊勢町

2022年11月の足利市の折込広告枚数は307枚で前年比マイナス1.3%（前々年比はマイナス5.5%）であった【※栃木県4地区平均では380.8枚、前年比+5.3%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の59.9%であった。次いでB3(A3)サイズの36.2%となり2種類のサイズが95%以上を占めた。また曜日別では、金曜日が最も多く全体の18.9%に上り、次いで火曜日の18.2%、水曜日の15.6%、土曜日の15.3%、木曜日、日曜日、月曜日と続いた。

業種別では**食品スーパー**が72枚（前年比+12.5%）で、先月に引き続き首位となった。2位は**医薬・化粧品**で40枚（前年比-24.5%）、3位は**衣料洋品店**で29枚（前年比+11.5%）であった。4位は**輸送機器**で17枚（前年比-19.0%）、5位は**家電・精密機器**で15枚（前年比-25.0%）となり、上位5業種の中では、**食品スーパー**、**衣料洋品店**が前年を上回る一方、**医薬・化粧品**、**輸送機器**、**家電・精密機器**が2ケタのマイナスとなった。

		6月	7月	8月	9月	10月	11月
足利	枚数(枚)	306	325	254	288	307	307
	前年比(%)	+7.0	+3.5	▲1.2	+19.0	▲6.7	▲1.3
	前々年比(%)	+23.9	+12.1	▲0.4	+6.7	+2.0	▲5.5
栃木県平均	枚数(枚)	369.0	373.0	320.5	352.3	358.5	380.8

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

## 業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2022年11月1日～30日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比 (%)	前々年比 (%)
		22年	21年	20年		
1	食品スーパー	72	64	71	+12.5	+1.4
2	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	40	53	39	-24.5	+2.6
3	衣料洋品店	29	26	24	+11.5	+20.8
4	輸送機器（自動車・カー用品等）	17	21	17	-19.0	0.0
5	家電・精密機器	15	20	26	-25.0	-42.3

## サイズ別枚数(2022年11月1日～30日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	8	111	184	4
0.0%	2.6%	36.2%	59.9%	1.3%

## 曜日別枚数

(2022年11月1日～30日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
34	27	56	48	37	58	47
11.1%	8.8%	18.2%	15.6%	12.1%	18.9%	15.3%

調査：㈱栃木読売IS